

熱海の街を間近に望む アカムツの名場所は健在

梅雨真っ最中の6月中旬、東伊豆宇佐美港の直正丸へ。狙うは人気ターゲットのアカムツだ。

近年各地で開拓が進み、ポイントも大幅に拡大されているが、東伊豆エリアも古くからアカムツの好釣り場として知られている。

集合時間の4時には3名のお客さんが顔をそろえ、仕度の整った4時20分に島田正則

船長の操船で港を後にする。

この日のポイント、熱海沖へは20分ほどの航程で到着。曇天で微風とコンディションはまずまず。

熱海沖のほか、初島沖、宇佐美沖、川奈沖とアカムツのポイントも点在しているが、どうもこのところ調子は今ひとつ。熱海沖はサイズこそほかの場所比べてやや劣るものの、数が安定しているのが特徴で、

手堅さでは一番。

竿入れ時刻の5時を待って第1投。水深は280メートル。真鶴から初島にかけては、半径約10キロのすり鉢状の地形をしており、岸際から急激に落ち込んでいる。

したがって、この水深でも熱海の街並みを間近に望むことが出来るほどだから、陸方からの風にはかなり強い。

仕掛けは胴つき3本バリ。捨て糸はなく、下バリの付け根のサルカンにオモリを装着するスタイル。

潮が緩いときは全長3メートルの片テン仕掛けも有効だが、混雑時はオマツリを防ぐため、潮が緩くても胴つき式に統一することもある。

エサはサバの切り身が支給される。定番のホタルイカは持参するか、予約時に注文しておくとう意してくれる(別料金)。

潮の流れはトロトロ

「オモリが底に着いたら3〜4メートル上げて」とタナの指示がある。

底物のイメージがあるアカムツだが、実際は海底から数メートル上を遊泳しているのが、オモリトントンでは外道ばかりで本命のアタリは遠くなる。その意味ではタナを上下に広く探りやすい胴つき仕掛けは有利だ。

潮はトロトロと流れている様子。昨日は速すぎて非常に釣りにくかったという。東京湾のような内湾と違い、潮回りや干満の時間で潮の向きや速さは予測できず、出てみなければ分からないのが実情。

知得! 美味なりシロムツ

本命のアカムツは絶対数が多くはないから、オデコに終わる可能性も少なからずある。ただ、定番外道のシロムツならほぼ空振りはないはず。せいぜい25センチ程度のサイズだから引きを楽しむほどではないし、巻き上げ中に回転してハリスがヨレヨレになったりして厄介者でもあるのだが、食味自体は決して悪くない。標準名はワキヤハタ、オオメハタ。沼津ではデンデンの名で流通していて、それなりに需要もある。同じ白身でも脂の塊のようなアカムツに比べるとかなり淡泊ではあるが、塩焼きや刺身のほか地元では天ぷらにして賞味することが多い。



新鮮なシロムツの刺身は美味



▲ツボ抜きしたホタルイカのゲソを2つ付けた下バリに食っていた

単発状態。

そよそよと吹いていた風も完全に止まり、モワツとした熱気に包まれる。遠く初島の北側にイサキ船団が望めるくらいで周囲に僚船の姿はない。

決め手はエサ付けの工夫

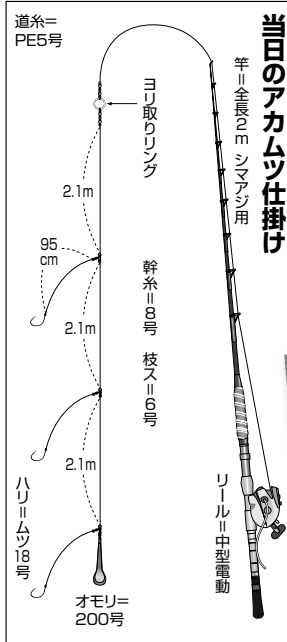
8時半、今度は右ミヨシで25センチ級、9時半に右トモで同サイズのアカムツが取り



▲常連客は軟らかめの竿を使う人が多い

Tackle Guide

どちらかというと置き竿主体の釣りになるので、竿は2メートル前後、竿先は軟らかめで、胴部に張りのあるシマアジ用などのタイプが魚の食い込みもよく向いている。ハリスは6〜8号。魚のサイズからして引きて切られることはないが、ハリ掛かりした魚が巻き上げ中に回転し、うまくヨリが取れないとねじ切られるケースもあるから、心配ならワンランク太めにしてもいい。



▼シロムツやスマイヤキ、メダイなどが交じった



穂先が柔軟なのが最大の特徴だが、これはアカムツにも有効。また、エサを口にしたらと違和感を与えにくいというメリットもある。

エサは上バリがサバ、下バリはサバとホタルイカがセオリーだが、この日はアカムツの活性が低いと判断して、胴を抜いたホタルイカを2つ付けることでシルエットをコンパクトにしたところ、2尾ともこれに食ってきたという。

エリアによってはオキアミをエサにするくらいだから、大きめのエサはあまり有効とはいえないようだ。

また、直正丸ではタナを取ったら、あとは置き竿にしてじっくり待つスタイルをすすめている。

一見横着なようだが、すり鉢の斜面、つまりカケ上がり

を流すため、まめなタナの取り直しが必要だ。それに加え、この常連さん

はかなりの時間を手持ちで誘い続けていた。誘いにも2つのタイプがあ

って、魚の目の前でヒラヒラとエサを躍らせることで反射的に食い付かせる、いわゆるリアクションバイトを狙ったものと、離れた場所にいる魚

にエサの存在を気付かせるのが狙いのものがある。アカムツの場合は後者。警戒心が強いのか、不自然な動きは嫌う傾向がある。

ゆっくりと竿いっぱい誘い上げたらいったん静止し、またゆっくりと元に戻す。誘いの最中や直後ではなく、しばらくしてからアタリが出るの



▲夏場になると比較的浅いポイントも狙う

がアカムツの特徴だということ。アカムツはこれから産卵期を迎える。乗っ込みで浅場に移動するため、水深180メートル付近も攻めるようになる。そのころになればアカムツの活性も上がり、数、サイズともに上向くことだろう。

●船宿information

東伊豆宇佐美港

直正丸

☎080-1569-3405 (詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=アカムツ乗合1人1万1000円 (サバエサ、氷付き)、ホタルイカ1パック500円

▶備考=予約乗合、4時集合。アラ、オニカサコ、イサキ、カイワリなどへも出船

島田 正則船長